

東京商工会議所へ 2020 春季生活闘争の要請を行う

連合東京は、3月19日(木)、東京商工会議所へ春闘要請を行い、杉浦会長（連合東京）から西尾常務理事（東京商工会議所）へ要請書を手交した。

杉浦会長は「第1回の春闘回答結果をみると、一定の回答をいただけたと考えている。この流れを中小労組につなげていきたい」と春闘への理解を求め、新型コロナウイルスについて「労働・生活、企業経営に与える影響は大きく、連合東京としても東京都に緊急要請を行った。また、労働金庫を申込先とする東京都の中小企業従業員向け実質無利子の生活資金融資を創設した。周知と活用をお願いしたい」と述べた。

西尾常務理事は「新型コロナウイルスは日本全体の問題と認識しており、資金繰りが厳しく、早急に対応しなければならない企業も出ている。まず資金繰りの問題を解消し、落ち込んでいる景気をどうするか考えなければならない」と深刻化する中小企業の状況を訴え、「賃上げは厳しい状況にあるが、大企業と中小企業の格差は人材確保の観点からも是正しなければならない」と処遇改善の必要性について一定の理解を示した。

代表あいさつの後、連合東京「要請書」の説明、東京商工会議所「中小企業の景況に関する調査」の報告を受け、意見交換を行った。意見交換を通じて、適正取引の必要性を再確認するとともに、新型コロナウイルス感染拡大に対する支援制度について、より広く活用されるためには、周知方法や申請手続き等に課題が浮き彫りになった。最後に、この困難な局面を乗り切るため、連合東京と東京商工会議所が足並みをそろえて取り組むことを確認した。